地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項　　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
【Ⅰ　理念に基づく運営】					
1．理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別に事業所独自の理念を作っている。地域密着型サービスの視点を加え、理念の見直しを行った。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念見直しの際、全職員からの意見を元に作成に取り組んだ。ホーム内に掲示すると共に朝礼時に唱和。また、会議等に於いても理念に基づいたサービスの実践に向け取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	館内の事務所前の掲示板での掲示や、月に一度の広報誌にも理念を載せ、ご家族はもちろんの事、多くの方にご理解頂ける様取り組んでいる。		
2．地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の方の協力によるセラピードッグの訪問など気楽に遊びに来て頂けるようになった。	○	ホームの存在、取り組みなどをより多くのご近所に知って頂く為の活動を行いたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ゲートボール大会等を通して幅広い年齢層の地域の方々との交流の機会を設けている。　　また、近くの幼稚園との交流や役場等に広報誌を置いて頂き、交流を深めていく努力を行っている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の方々によるボランティア会の活動をサークルとして受け入れを行っている。（朗読・昭和琴・紙芝居など）		

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で検討し、改善点に対しての意見も多く出た。前回評価での改善課題については、家族や地域の方々との連携を深める為、ご家族と職員合同で広報誌を作成・配布や研修会の実施など評価を活かして具体的に取り組んでいる。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催している。評価結果についての意見を頂き、取り組み状況等についての報告毎にアドバイスして頂く事でサービスの向上に活かせている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が小竹町高齢者対策委員であり、連携が取れている。町の保健福祉課と町内ＧＨ全６事業所による推進会議にて情報交換会を行っている。また、小竹町からの委託により、地域支援事業として家族支援事業（教室）の開催を20年度に実施予定。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関して家族会を通じて資料を渡し、説明を行っている。職員は法人内にて開催された研修会に参加。マニュアル・報告書・パンフレット等により周知徹底を行っている。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	マニュアルや勉強会により身体拘束禁止の対象となる具体的な行為についてや、やむを得ない場合の拘束に関する書類について周知徹底に努めている。	○	事例が無い為、書類の記載方法などの勉強会等を行う予定。
４．理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書により十分な説明を行い、質問を受付けはもちろん、ご家族が何を不安と考えているのかを考慮しながら理解・納得を図っている。解約時にも各関係機関と連携を図り、退居の支援を行っている。		

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度介護相談員が来訪し、利用者の相談に応じ報告頂いている。また、ご本人の不満や言動から真の意向を汲み取り、より良い支援となるよう努めている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	全ての利用者の金銭出納帳を作成し、毎月ご家族に確認を頂いている。月に一度家族会を開催し、案内状と共に行事や実施事項の予定表を送付している。三ヶ月に一度のカンファレンスも参加頂き、健康面や日々の生活状況を報告している。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で意見交換を行っている。また、カンファレンス時にも要望等を聞き、速やかに対応するよう心掛けている。（スタッフ紹介の掲示など）		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体の職員会議や事業所内の職員会議の場に於いて、職員の意見・提案を聞く機会を設けている。（勤務時間の変更・休憩場所の確保など）		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	無理なく利用者の方の状況に合わせた体制が取れるよう人員確保している。日中から利用者の方との良好な関係が出来ている職員により、夜勤を行っている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動・離職を最小限に抑えるよう職員の面談等を行っているが、やむを得ずある場合は、十分な期間と申し送りを行う事により、利用者の方へのダメージを防ぐよう努めている。		

項目番号 自己	項目番号 外部	項　　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、年齢・性別等を理由に採用対象から排除しないようにしている。採用後も働きながら資格取得の為の支援体制を整え、安心して働ける職場環境を目指している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者の人権の確保やその他の人権についてのマニュアルやパンフレットを整備し、人権の擁護について啓発活動を行い、全職員が意識を持てるよう取り組んでいる。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部及び外部研修の情報を職員に提供し、希望する研修を受ける機会を確保している。また、研修の報告書・資料を閲覧出来るようにしている。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のＧＨ６事業所合同による推進会議に於いて、情報交換会を行っている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員会議にて休憩場所の確保について検討し合い、少しでもストレス軽減でき、安定した心身状態で勤務出来るよう環境づくりに取り組んでいる。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	掃除確認表の記入により、業務に対する意識向上や法人内の委員会に全職員が参加することにより職員自らが様々な課題に対して取り組むなど、目標の明確化を図る様努めている。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
【Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	―	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	出来る限りご本人の言葉を引き出せるよう努力し、不安や置かれている状況を理解する事でご本人を知り、受けとめる様努力している。		
26	―	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の立場を理解した上で話を聞き、ご本人との思いの違いやこれまでの経過を把握出来る様努力している。		
27	―	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式にて十分にアセスメントを行い、ご本人、ご家族のニーズを基に目標を立て的確な支援が行える様努めている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の方が混乱する事の無いよう、滞在時間を少しずつ延ばしながらの試し期間を設け、徐々に慣れていけるよう工夫している。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の意欲や持っている力を十分に発揮できる場面づくりを多く持てるよう取り組んでいる。野菜や花の植え方や料理の仕方等を教えて頂くな等、理念にもある長寿を敬う気持ちを忘れず、共感できる関係を目指し取り組んでいる。		
30	―	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共にカンファレンスを行う事で、一緒に支えている意識を強め、行事の参加により共に楽しむ喜びを分かち合える関係にある。		

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会の開催によりご本人とご家族との関係がより深く理解出来るようになった。また、行事に参加して頂く事で良い関係を継続出来ている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へのドライブを定期的に実施している。友人の面会、ご家族との外出や外泊により関係継続が出来ている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	ご利用者同士でお世話をする等関わり合いを持ち、支え合う関係が出来ている。孤立している場合には、他の利用者の方のお世話にてさりげなく気持ちを引き上げて頂けるよう声掛けや椅子の配置等に配慮している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も相談や訪問して頂ける様に関係継続に努めている。		
【Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
１．一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方の言葉はもちろんの事、行動や表情をご本人の意向であると受け止め、思いや希望を汲み取れるよう努力している。意思表示が困難な場合も、全職員の現状報告による課題の分析、今後の支援に対しての意見を総合・検討して支援に取り組んでいる。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族とのカンファレンスの中で、知り得なかった生活歴や趣味の情報を得る事で一層把握できるようになった。ご家族が把握していない部分も、時間を掛けたご本人とのコミュニケーションの中で情報収集する様にしている。		

項目番号 自己	項目番号 外部	項　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	記録の充実や把握、またカンファレンス時に全職員に現状の確認と真に必要な支援の検討を行い、周知徹底を図っている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人の希望はもちろん、ご家族の意向も計画書に記載し、カンファレンス時に家族の他にも併設施設職員の参加等により、ご本人と関わりのある関係者によって意見を出し合い、介護計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	３ヶ月に１回介護計画を見直し、状態変化時には随時見直しを行っている。見直しの際、現状・問題点・今後の支援についての会議を行っている（全職員の意見を聴取・集約）		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の充実の他、情報の共有化を図る為、申し送りノートに全職員の捺印にて確認を行っている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院や送迎等、必要な支援を行っている。利用者が入院した際は、家族と連絡を取りながら早期退院出来る様病院とも連携をとっている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防法に基づいて、消火・通報・避難訓練を年に２回実施している。また、サークル活動における地域ボランティアの受け入れ。保育園児・小学生の訪問、中学生の職場体験の受け入れを支援している。		

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、他のケアマネージャーや在宅支援事業所などに相談しながら意向や必要性に合うようなサービスの提供が出来る体制にある。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在事例・問題はないが、必要に応じて地域支援センターと協働していきたいと思っている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族との話し合いにて受診方法を決め、必要時には協力医院による受診が週１回可能となっている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医である専門医への受診に、日常生活動作を良く知る職員が付き添い、情報提供を行うと共に助言頂いている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設の看護職員に必要時相談を行い、健康管理や対応を助言頂いている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入退院に備え、常時連携をとりながら情報交換に努め、連絡体制などを整備している。入院中の混乱防止はもちろん、退院後の注意点についても情報頂いている。		

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の意向を重視しながら、職員間で出来る事・出来ない事を十分検討し、家族やかかりつけ医と話し合いながら対応している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期の利用者に対して、職員の力量や設備、他の利用者への影響等も踏まえ、その都度対応を検討していく。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む際には、プライバシーに配慮しこれまでの生活が継続して行われるよう、情報伝達や家族との話し合いを十分行うようにいている。		
【Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳や誇りを大切にし、意向を確認・教えを頂く等を常に意識して接している。マニュアルによる周知徹底や、記録等の保管等の取扱いに注意している。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	判断力や表現力の低下が見られる場合も、出来る限りご本人の言葉が引き出せるよう傾聴を心掛け、本人の意思を尊重した支援が行えるよう働きかけている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントの充実やカンファレンスによる心身状況の把握により、ご本人の思いに沿いながら本人本位の継続的な支援を目指し取り組んでいる。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
（２）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に一度、理容・美容師が訪問されている事のお知らせを行っている。徐々に化粧から離れつつある方に声掛けなどを行い、その人らしさの継続に努めている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は法人の栄養士からの提供。行事食ではホーム内で献立を立ててお好きな料理を作ったり、外食を楽しめる日も設けている。台所で利用者の方と一緒に準備・片付けを行っている。食事は職員と一緒に食べ、和やかな食卓を目指している。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	糖尿・高血圧等の疾病のある方、特に医師より指示のある方には、塩分や甘い物を控える等考慮しているが、基本的にはご本人の嗜好を取り入れている。飲物もコーヒーを好まれる方もおられ、楽しみな時間となっている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の自立を目標に、出来る限りトイレでの排泄を促す為、排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行っている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人の希望で常に入浴可能としている。朝風呂を好まれる方もいる。入浴を好まない方にも気持ちよく入浴出来る様声掛け等で清潔保持に努めている。入浴されない日は、足浴を実施している。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない時は一日の生活リズムづくりの為、日中の活動を意識した支援を行う等の工夫をしたり、環境整備の見直しを行っている。また、協力医である心療内科の医師に相談し、指示を受けている。		

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
（３）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ゲートボール・華道・カラオケ・掃除・料理・洗濯物たたみ・野菜作りなど、利用者の日々の充実の為、生活歴を活かした役割や楽しみ等を支援している。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピング時に希望に応じてお金を所持して頂き、混乱される事の無い様、側面的見守りを行っている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子の方も共に行事などで外出を楽しんだり、不穏状態にある時はドライブに出掛ける事もある。外食も楽しみのひとつとなっている。戸外散歩は日常的に支援している。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と墓参りや外食に出掛けられる事も多い。日常の中でご本人が気にされている事や希望されている事をご家族に伝え、願いが叶えられるよう働きかけている。	○	利用者、ご家族と共に出掛けるドライブなどを計画したい。
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をかけるお手伝いをしたり、手紙の代読を行っている。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会者は頻繁にあり、ホールや居室で利用者とお茶をされたり、ゲームに参加されるなど、楽しく過ごされている。		

項目番号 自己	項目番号 外部	項　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
（４）安心と安全を支える支援					
67	―	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく認識する為のマニュアルによる周知徹底や、身体拘束をしない支援の実践ができている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は夜間の玄関のみとし、日中は自由に行動されている。ホーム外に出て行かれても、さりげなく同行するようにしている。その方の外出の習慣（時間や表情から）を把握出来ているが、もしもの場合にも併設施設の職員との連携により、安全を保持している。		
69	―	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホール全体の様子を伺いながら、さりげなく見守り、安全の確認を行っている。夜間も睡眠を妨げる事の無いよう注意しながら巡視を行っている。常に利用者のサインを見落とさないよう注意を払っている。		
70	―	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁は夜間のみ鍵付きの場所にて保管を行い、洗剤などは決められた場所に置くようにしている。薬は昼夜鍵の付いた場所に保管している。		
71	―	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のマニュアルによる知識の周知や、カンファレンス時に個別の注意点の確認を行い処遇を検討するなどの取り組みがある。また、ヒアリハットの報告を促すことで、事故に繋がりそうな危険因子に速やかに対応が行えるよう努めている。		
72	―	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時のマニュアルやフロムチャートにより、対応を明確にしているが、訓練は行っていない。法人内での安全対策委員会発足により意識は高まっている。（敬寿職員２名委員参加）	○	夜間一人体制での対応の訓練を行いたいと考えている。

項目番号 自己	項目番号 外部	項　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年２回消防署の協力による避難訓練を行い、地域の方の協力を呼びかけている。誘導方法や避難介助の担当を決め、安全に対応できるように努めている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	カンファレンス会議にご家族が参加されるようになり、リスクに対しての理解が深まり、徘徊時などに抑圧感のない生活を過ごせるよう対応している。		
（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	それぞれの服薬状況や、顔色・動作の変化などによる兆候を見落とさないように注意している。また、気付いた時には連携の看護職員や協力医に連絡を取り、対応の遅れが無いよう心掛けている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員に分かり易い様、個人別薬剤内容表を作成し、服用方法なども分かるようにし、飲み忘れなどの無いよう対応している。受診の際にも経過報告書を記入情報を共有し、ご家族への報告を行っている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材を工夫したり、水分や運動による対応を心掛けている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行うよう支援している。		

項目番号 自己	項目番号 外部	項　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が一括してカロリー計算をしている。利用者の状態や習慣に合わせた食事・水分補給の摂取量を確保・記録している。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	マニュアルによる周知徹底と地域の感染症発生状況の情報収集に努め、玄関に注意書きを掲示し、消毒の設置などで対応している。また、インフルエンザに於いては予防接種を施設内で実施している。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗い・器具の洗浄・原材料の保管管理、など清潔保持に努めている。消毒液の使用はもちろん、冷蔵庫の整理・清掃の担当（勤務形態）決め毎日実施、食材の管理と無駄の無い工夫を行っている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（１）居心地のよい環境づくり**					
82	—	○　安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には利用者と共に造った花壇があり、季節の花を植えたり野菜作りを行い、親しみやすい環境作りを目指している。花壇を増設中である。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り生活感が持てる様和室の使い方や調度品を工夫している。季節感採り入れるための植物を飾ったり、イベント毎の飾り付けなど配慮している。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子の配置を工夫して、数人で会話出来る場所と、一人になれる場所づくりをしている。		

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に植物や写真などを飾られている方が多く、馴染みの物に囲まれ落ち着いた環境となっている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホールに温度計を設置しており、職員が常に確認している。湿度調整も加湿器を利用している。換気もこまめに行っている。		
（２）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物自体はハートビル法の適用を受けている。要所に手摺りの設置や浴槽の滑り止めをするなど、身体機能の低下を補う為の配慮をしている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分で考え行動する場面において、側面的な見守りを行う上で、必要の無いもの、紛らわしい物を置かないようにして、生活動線の安全の確保と混乱防止に努めている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	静かな木立に囲まれたホームの周囲を職員と一緒に散歩したり、ベランダからゲートボールの様子を眺めたりされている。また、玄関前の花や野菜の手入れ、洗濯物干しなどを楽しみとされている。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
Ⅴ　サービスの成果に関する項目				
90	－	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の２／３くらいの
				③利用者の１／３くらいの
				④ほとんど掴んでいない
91	－	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
				②数日に１回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
92	－	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
93	－	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
94	－	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
95	－	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
96	－	○利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんど掴んでいない

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
97	―	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の２／３くらいと
				③家族の１／３くらいと
				④ほとんどできていない
98	―	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている		①ほぼ毎日のように
			○	②数日に1回程度
				③たまに
				④ほとんどない
99	―	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
100	―	○職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の２／３くらいが
				③職員の１／３くらいが
				④ほとんどいない
101	―	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
102	―	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の２／３くらいが
				③家族等の１／３くらいが
				④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

　運営理念を実践に活かせるよう質の向上に取り組んでいます。「ふつうの暮らし」が送れる様、裸足の生活を推奨し、花壇の増設にも取り組みました。家族や地域との交流によりその人らしい生活が維持出来る様、行事やカンファレンスへの家族参加、アルバムや広報誌の作成、幼稚園との交流にも力を入れています。家族会を充実することで、職員とご家族により深い信頼関係ができていると感じます。